

【運営方針4】開かれた農大づくり

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】地域と連携した活動等による情報発信					
評価項目	評価目標	具体的方策と指標・基準等	取組状況	評価	次年度に向けた改善策
1	農業教育機関との交流推進 (1)連携活動数:3計画	① 高大連携活動の実施【拡充】 農業関係の高校生の就農等を促進するため、農業高等学校の農業クラブ活動に対して、プロジェクト発表会や意見発表会での助言など連携した就農支援を行なうとともに、新たに普通高等学校との連携についても検討する。 高校生の林業に対する理解を促進するため、高校での林業に関する授業の実施や、刈払機、チェーンソーの安全操作を指導する。	<ul style="list-style-type: none"> 例年実施していた山形県高校農業クラブ連盟の強化練習会における本校職員の指導・助言はコロナ禍により実施できなかった。 高大連携実技講習会の夏期さくらんぼ剪定を8月に実施したが、冬期管理講習会(さくらんぼ・りんご)は、コロナ禍により中止とした。 山形大学、県内農業高等学校等と連携して開催する「第10回農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」は、コロナ禍により中止となった。 今年度新たに山辺高等学校食料科との連携の推進のため、1月に職員間で打合せを実施し、来年度より具体的な取組みを進めることとした。 高校生に対する林業・森林経営に関する授業を10月に村山産業高等学校(2回)と6月・9月に置賜農業高等学校(3回)で実施した。 <p>* コロナ禍のため、活動が制限されたものの、高大連携実技講習会、山辺高等学校との連携、林業・森林経営に関する授業の3計画を実施できたことから、「C」評価とする。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容については、農業高校との連携強化推進会議で検討し、生徒が農林業を進路選択の一つとするよう各種取組みを実施する。 山辺高等学校食料科との連携活動として、農産加工経営学科(2学年)が卒業論文研究で試作した製品に関するアンケート調査等の取組みや農林大で生産した食材を提供し、高校生の食品開発を支援する取組みを行う。 高校生への林業・森林経営に関する授業は、各高校と日程・内容を調整しながら来年度も実施する。
		② 体験授業や出前授業の実施【継続】 農業関係高校等の生徒や教員を本校に招き、各学科の学習内容や学校生活、進路等について紹介するキャンパスツアーを実施する。 また、出前授業では、各学科の職員が高校を訪問し、講義や実習を通して農業や林業の役割・意義や学習内容等について紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 「農林大学校キャンパスツアー」を7・8月に3回、開催し、新庄神室産業高等学校の生徒に対して、本校の概要や学習内容、学校生活、施設の案内や卒業後の進路等を説明し、本校への理解促進に努めた。 7月、出前授業を庄内農業高等学校で実施し、本校職員が参加高校生に対して、稲の品種改良に関する講義を行った。 コロナ禍により、高校生や高校教員に対して、対面での情報提供が困難であったことから、本校ホームページにウェブオープンキャンパス(下記QRコードからアクセス可)を開設し、本校の概要や各学科学生の活動の様子を動画により紹介した。  <p>山形県立農林大学校HP</p>		<ul style="list-style-type: none"> 高校生に対する職業としての農業選択の機会を高めるため、来年度も高校と時期や内容を調整しながら、「キャンパスツアー」や出前授業等を開催する。開催方法については、コロナ禍により対面での開催が困難である場合には、ウェブ会議サービス「Zoom」による開催を検討する。 今年度制作したウェブオープンキャンパスについて、各種学生説明会で紹介し、高校生等への本校理解の促進を図る。
2	地域と連携した課題解決に向けたプロジェクト活動の実施 (1)プロジェクト実施数:7課題 (2)地域と連携した取組み数:3課題	① 「地域連携課題プロジェクト」の実施【継続】 各学科が主体となって「地域協働研究」に取組み、専攻分野における課題を調査し、関係団体等と連携しながら、課題解決に向けた地域支援活動を行う。	<p>本校の全学科において、学生(1学年)が各々の学習内容を生かし、地域連携課題プロジェクトに取組んだ。取組み内容は下記のとおりである。</p> <p>(稲作経営学科)最上地域の稲作の担い手育成・支援のため、升形小学校での稲のボット栽培教育や稲作農家を対象としたスマート農業実演会の開催(果樹経営学科)適正着果による高品質さくらんぼ果実生産に向けた現地実証、最上さくらんぼ品評会での参考出展(野菜経営学科)「角川かぶ(戸沢村)」の優良系統選抜と採種(花き経営学科)枝物花木(スノーボール)の挿し木や栽培管理を実践し、栽培農家と情報交換(畜産経営学科)和牛における発酵代用乳による繁殖育成技術の安定化(農産加工経営学科)真室川町産雪下にんじんを活用した加工品開発(林業経営学科)村山産業高等学校実習林における同校生徒に対する農林大学生による森林管理指導</p> <p>なお、プロジェクト発表会を2月に行い、各連携先から活動内容に対する意見をいただいた。</p> <p>* プロジェクト実施数は、目標通りの7課題であることから、「C」評価とする。</p>	(1)プロジェクト実施数・・・C (2)地域と連携した取組み数・・・C	<ul style="list-style-type: none"> 「地域連携課題プロジェクト」について、農林大の栽培や農産加工技術等の強みを活かして、さらに地域の課題解決につなげられるよう、課題内容について検討し、引き続き実施していく。
		② 地域と連携した取組み【継続】 「新庄・もがみフラワーフェスティバル」や「山形県ホルスタイン共進会」など、農や食に関する品評会への出品や運営スタッフとしての参加を通して、本校の取組みを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 花き経営学科では、9月に開催された「新庄・もがみフラワーフェスティバル」において、飾花等の作業補助を行った。 「山形県ホルスタイン共進会」は、コロナ禍により中止となった。 <p>* 地域と連携した取組み数は1課題であったが、コロナ禍で連携が困難な状況であったことから、「C」評価とする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 花き経営学科は、来年度も「新庄・もがみフラワーフェスティバル」に参加し、地域の活性化に寄与する。 畜産経営学科は、「山形県ホルスタイン共進会」に参加し、県内トップレベルの取組みについて学び、乳牛飼養管理技術の向上につなげる。
3	ボランティア活動への支援 (1)取組み数:3取組み	① 学生主体のボランティア活動への支援【継続】 学生の社会経験が、今後の学習や進路選択に活かせるよう、学生のボランティア活動(品評会への出品・出展、さくらんぼサポーター活動、新庄そばまつりの運営スタッフや高齢者宅の除雪作業への参加等)を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> さくらんぼの収穫労働力の支援として、「さくらんぼサポーター」を結成し、学生有志(14名)が、6月、コロナ禍で観光客の減少で苦しむ寒河江市の観光果樹園で収穫作業に協力した。 新庄社会福祉協議会の要請により、2月に市内の高齢者世帯の除雪支援に学生(30名)が参加した。 新庄市がそばの販売振興のために募集していた新庄そばガールズは、コロナ禍のため募集されなかった。 <p>* 取組み数は、「さくらんぼサポーター」・除雪支援の2取組みであり、目標の3取組みを下回ったが、コロナ禍の状況で実施は困難であったことから、「C」評価とする。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 「さくらんぼサポーター」については、県全体で取組んでおり、引き続き、学生の参加を促していく。 各種イベントでのボランティア活動は、学生のコミュニケーション能力や社会貢献意欲の向上つながっていることから、来年度もコロナ対策を行いながら、積極的に参加していく。

自己評価	評価
<ul style="list-style-type: none"> 農業教育機関との交流推進については、コロナ禍により各種活動の制限を受ける中ではあったが、県内農業高校と連携しながら、高大連携実技講習会等の3計画を実施することができた。 地域の課題解決のため、地域と連携して各学科1課題、合計7課題に計画通り取組み、その成果を発表するプロジェクト発表会にて、各連携先から意見を聴取した。それらの意見を次年度以降の活動に活かしていく。また、地域と連携して「新庄・もがみフラワーフェスティバル」の運営補助にあたり、フェスティバルの開催に貢献できた。 さくらんぼの労働力支援等、各種支援に参加し、学生の社会貢献意欲の向上が図れたとともに、その活動内容については、関係機関から高評価を受けた。 	C

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	学校関係者評価(意見)	評価
<ul style="list-style-type: none"> 画像や動画など、SNSを利用した情報発信をもっと試してみようか? → 学生主体でSNSを利用した情報発信ができるよう、来年度よりカリキュラム内でその手法(効果的な動画の作成など)を学習する講義を行う。また、すでに農大市場委員会では、フェイスブックを利用した「農大市場」に関する情報発信を行っていることから、継続して取組んでいきます。 高校生へ林業の魅力を多角的に発信していきたい。 → 高等学校における林業体験実習や地域連携活動、各種イベントへの参加等を積極的に進め、林業の魅力を多角的に発信していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の地域ボランティア活動は、学生自らが社会貢献しているという自信につながり良いと思う。サクランボの収穫・高齢世帯の除雪支援のほかにもいろいろ学生に頑張ってもらいたい。 県立の教育機関として重要な取組みであると思います。現状の取組みを評価するとともに、今後とも期待いたします。 地域との連携ができるのは県の農林大学校であることの大きな利点であると思っています。実施するためには、学生にも指導者側にも一定の余裕が必要と思われるので、少人数である利点を生かして、可能な限り対外的にも活躍できる素地を作ってもらいようお願いします。 「ウェブオープンキャンパス」動画でPRは、すごく良いと思います。 	C